

環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 25

フジシールグループ フジシールインターナショナルの GHG 削減目標が SBT イニシアチブの認定を取得

株式会社フジシールインターナショナルは、国際的イニシアチブであるSBTi^{*1}より短期目標の認定を取得しました。当社のScope1およびScope2のGHG排出削減目標は、SBTiの審査により、「1.5℃水準」に整合することが確認されました。

スコープ1 ^{*2} &2 ^{*3}	2030年度までに温室効果ガス排出量を2022年度基準で42%削減
スコープ3 ^{*4}	2030年度までに温室効果ガス排出量を2022年度基準で25%削減



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

^{*1} 国連グローバル・コンパクト、CDP、WRI(世界資源研究所)、WWF(世界自然保護基金)により共同設立され、産業革命前からの気温上昇を1.5℃未満に抑えるための科学的根拠に基づいた目標(1.5℃水準)の設定を企業に求めるイニシアチブ

^{*2} スコープ1: 自社での燃料使用による直接排出量

^{*3} スコープ2: 自社が購入した電気、蒸気、熱、冷却による間接排出量

^{*4} スコープ3: スコープ1および2以外の、自社のバリューチェーンからの間接排出量

■ これまでの GHG 排出量の推移と新たな取り組みの開始

フジシールグループでは、2018年度から2023年度までの6年間、日本の全拠点および海外の生産拠点におけるエネルギー起源GHG排出量売上高原単位を対象とした目標を掲げ取り組んできました。最終年度となる2023年度は2017年度対比14.4%削減(0.78t・CO₂/百万円の削減)を達成しました。これは、目標値である2017年度対比6%の削減(0.85t・CO₂/百万円の削減)を大幅に上回る結果であり、目標を達成することができました。なお、最終ページに参考資料として、GHG排出量と売上高原単位の推移を示すグラフを掲載しておりますので、あわせてご参照ください。

SBTiの認定を受けた目標の実質的なスタートは2024年度です。2022年度のscope1および2の総排出量189,778tCO₂を2030年度には110,071tCO₂に削減することを目指しています。また、scope3においては、2022年度の1,652,102tCO₂から1,239,076tCO₂まで削減する計画です。これまでの取り組みに加え、新たな施策も加えながら、更なる削減を進めて参ります。

環境レポート
ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 25

フジシールグループ
フジシールインターナショナルの
GHG 削減目標が
SBT イニシアチブの認定を取得

■フジシールグループの主な取り組み

◇環境配慮型製品の提供（scope3 の削減に貢献）

●シュリンクラベラー、シュリンクトンネル

環境配慮型製品のニーズの高まりに伴い、当社でも人と環境にやさしい機械の開発を強化しています。最薄となる20ミクロンラベル専用対応のシュリンクラベラー（製品名：TLS）や従来型よりエネルギー消費量や水使用量などを大幅に削減できるシュリンクトンネル（製品名：FS-HS）のラインアップも備えています。



TLSシリーズ

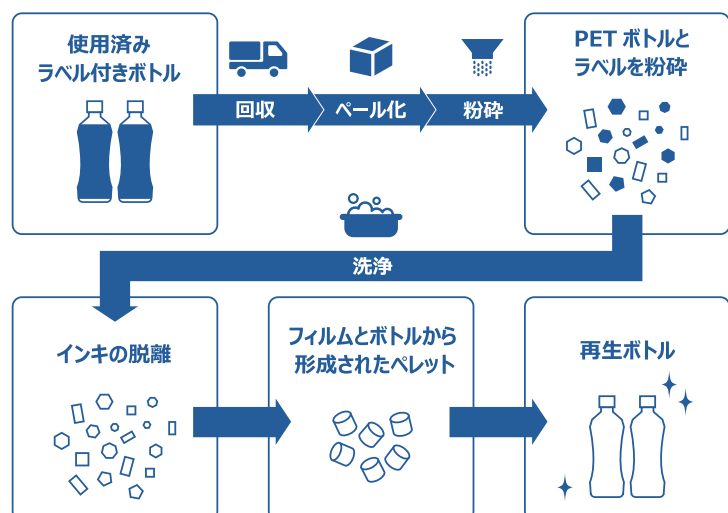


FS-HS

●RecShrink™

ラベルをゴミではなく、「価値ある資源」として再活用できる製品として、米州を中心に更なる拡大を目指しています。当社開発品のRecShrink™は2019年に米州のリサイクル協会(APR)より、PETボトルと一緒に再生PETボトルへのリサイクル可能なラベルとして認定されています。プラスチックの循環利用に向けた仕組みづくりが加速する中、いち早く変化に対応し、ビジネスチャンスを獲得しました。

今後、ラベルのリサイクルシステムが確立されていくことで、RecShrink™の特長を生かし、scope3の削減の貢献が期待できます。



環境レポート

ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 25

フジシールグループ フジシールインターナショナルの GHG 削減目標が SBT イニシアチブの認定を取得

◇再生エネルギーの活用（scope2 の削減に貢献）

当社グループでは、GHG排出量削減のため、再生可能エネルギーの導入を進めています。2023年度は電気使用量の5%にあたる9,126MWHを再生可能エネルギーから調達しました。

また、2024年1月よりドイツ工場では、購入電力のすべてを100%再生可能エネルギー由来に切り替えました。これにより、使用するすべての電力が再生可能エネルギーとなりました。

日本においても、茨城県・筑波工場にて2024年1月より自己所有自己消費型の太陽光パネルの稼働を開始しています。



筑波工場のソーラーパネル

◇熱エネルギー循環システム（scope1 の削減に貢献）

化学物質排出量の削減の取り組みとして、筑波工場、名張工場、結城工場そしてフランス工場ではVOC炉や廃熱ボイラーを利用した熱エネルギー循環システムにより、VOCの大气への排出を防ぐと同時に、燃料使用量の削減を実現しています。



フランス工場の熱エネルギー循環システム

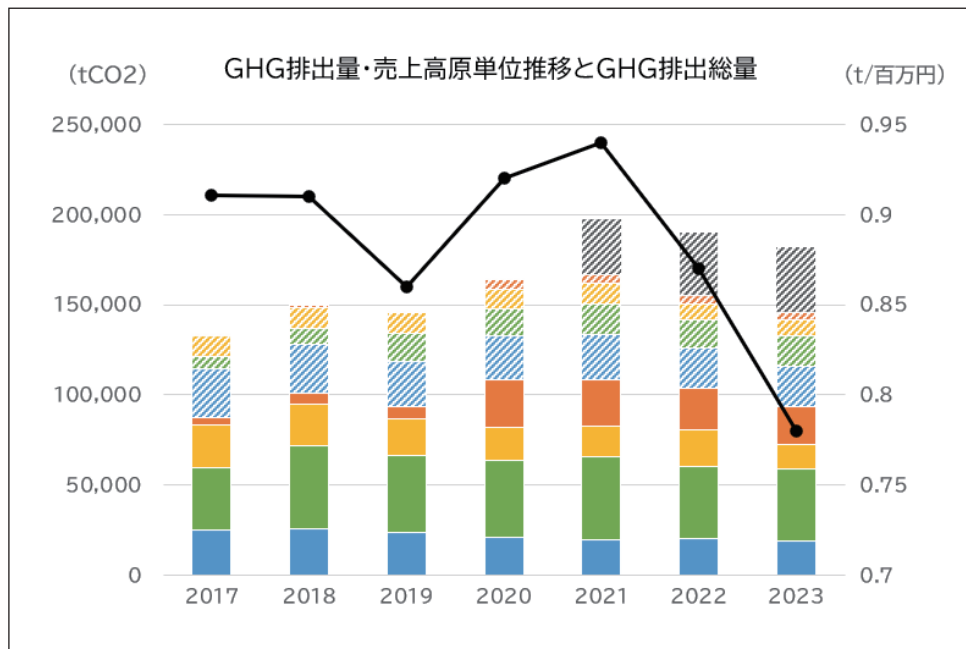
当社グループでは、気候変動・海洋プラスチック問題・資源枯渇といった環境課題を解決しながら、社会の持続性への貢献と企業としての持続的な成長を目指しています。そのために、製造における環境負荷低減を目指す『価値をまもる』取り組みを基盤とした上で、マテリアリティの一つでもある環境配慮型製品の開発・供給に重点をおいた『価値を創造する』取り組みに力を入れていきます。

環境レポート
ENVIRONMENTAL REPORT

Vol. 25

フジシールグループ
フジシールインターナショナルの
GHG 削減目標が
SBT イニシアチブの認定を取得

■ご参考資料



GHG排出量(エネルギー起源)売上原単位: ●—
 エネルギー起源GHG排出量 (Scope 1): ■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アセアン
 エネルギー起源GHG排出量 (Scope 2): ■ 日本 ■ 米州 ■ 欧州 ■ アセアン
 非エネルギー起源GHG排出量 (Scope 1): ■ 全社